

書誌
年鑑

2021

有木太一
編

凡 例

I 収録範囲

1 期間

日本で発表された各種の文献目録すなわち書誌のうち、2020年1月から12月までに発表されたもの、およびそれ以前の発表で『書誌年鑑』に掲載できなかったもの、合計9,443点(キーワード件数)と書誌解説12点を収録した。

2 内容

書誌は文献のリストなので、博物館などが編集・発行する動植物・鉱物の目録はもちろん対象外であるが、書誌の一分野である文書目録も対象外としている。近年地方・中央で多くの文書館が開設され、中世・近世・近現代の文書が多数発掘・保存される情勢となったので、本書では、文書目録の収集や目録化は、新しく大きく形成されてきた文書館界に任せるのが妥当だと考えている。本書収録の書誌は、文献探索上で書誌が必要とされる、人文科学・社会科学・生活科学の範囲のものにおおむね限られている。

3 採録

本書の編者が新刊の図書資料・雑誌から日常採録した書誌に、日外アソシエーツにおいて収集したデータから編者が選択・現物確認した書誌を加えている。

II 配列方法

1 「書誌目録」では、上記の書誌記述から件名・人名・地名・誌名などのキーワードを選定し、その五十音順に配列している。

2 「書誌解説」では、本書収録の書誌から、主題・形式などに特色のあるものを選択した。配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

3 キーワード五十音順の配列においては、濁音・半濁音は清音とし、ヴ→ウ、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音も直音とし、長音符(音引き)はアの前とした。

III 記述形式

1 キーワード

第1キーワードはゴシック体で表示。第2キーワードは「⇔」の後に続けて明朝体で表示し、同一記述を第2キーワードの位置にも副出した。

2 図書単行書誌

【書名 副書名 巻次】 発行所名 ☆
(著編者名) 発行年月 総頁数 判型

* 図書単行書誌では、書誌表示を☆印とした。

* 総頁数は、別頁があり記述が長くなる場合には合計数としていることがある。

* 発行所名欄は下記のように省略した(以下3、4でも同様)。

○○大学 → ○○大 ○○短期大学 → ○○短大

○○教育委員会 → ○○教委

3 図書収録書誌

【書名 副書名】(著編者名) 発行所名 書誌表示
(収録書誌編者名) 発行年月 始-終頁

4 雑誌掲載書誌

「誌名 巻・号・通号」 発行所名 書誌表示
(掲載書誌編者名) 発行年月 始-終頁

* 雑誌全体の編者名(団体・個人)は省略した。

5 書誌表示

参考文献・引用文献・著書目録・著作目録・文献目録・業績・年譜など。長いものは短縮した。

6 頁記述

p: page f: front b: back r: random

pf: 前付部分に書誌があって、頁付がない場合。

pb: 後付部分に書誌があって、頁付がない場合。

pr: 前付・後付以外の部分に書誌があって、頁付がない場合。

p1-3f: 前付部分に書誌があって、頁付がある場合。

p1-3b: 後付部分に書誌があって、頁付がある場合。

pr: 各章節末に書誌がある場合。

* 連載ものは初回の掲載頁のみを記載した。

この本の使い方

1. アペリティフ

すでにご存じとは思いますが、書誌とは何であるかをまず確認しておこう。ざっくり言えば、書誌とは「本の選手名鑑」である。

野球やサッカーなどのプロスポーツ、あるいはAKBや坂道などアイドルグループには、「選手名鑑」「メンバー名鑑」といった本（ないし冊子）がある。運営会社など興行側でつくる公式本、一般の出版社や個人がつくる非公式本の別を問わず、スポーツなら各チームの選手について、アイドルならそのグループのタレントについて、プロフィールが紹介されている。単独で1冊にまとめられるほか、雑誌の特集記事や付録になったり、一部公営ギャンブルでは無料配布されることもある。

書誌はこれらと似ている。選手名鑑には、あるチームが試合で勝利することを目標として集められた選手の、氏名・出身地・生年月日・背番号・ポジション・身長・体重といった情報が出ている。これと同じように、書誌には、あるテーマを究明することを目標として集められた本の、書名・著者名・刊行年月・出版者（社）といった項目が掲載されている。チーム＝テーマに則って、選手＝本が紹介されている。書誌によって、あるテーマを明らかにするための本を知ることができる。

当『書誌年鑑』は、「書誌」というテーマに基づいて、書誌＝本の選手名鑑を集めた本。このことから“書誌の書誌”と呼ばれている。これにより、どんな「本の選手名鑑」が出ているかがわかり、あるテーマについて知りたい／調べたいと思った時に、どの本を読んだらよいかの指針となるのである。こうした用途を補うものとして、図書館にはOPAC（オンライン蔵書目録）が普及しているが、OPACではその館で所蔵しているものしか検索できないし、また隣接領域の文献がたまたま目に入るといっても生じないので、プラスアルファの効果は生まれにくい。

大学に入学すると、学術論文やレポートの作成についてオリエンテー

ションを受けると思う。そこでよく言われているのが、学術論文の脚注から芋づる式に参考文献を探し求めるというやり方である。ところが、この方法はかなりの労力を要する。脚注には参考文献以外の内容も含まれており、文献の書誌情報だけをまとめようとしても余計なノイズが多いからだ。そもそも「論文」にどのように行き当たればよいのか。

そういう時に、まず『書誌年鑑』を手にしていただきたい。書誌＝文献一覧がテーマ別に多数並んでいる。読者は文献を探索する際にまず本書を使うことで、芋づるをたぐり寄せるエネルギーが軽減できるのである。

というわけで、当『書誌年鑑』は、単に物事を知る・調べることから一歩進んで、よりクリエイティブに、イノベティブな論文やレポートを生産するための本であると言える。

2. プラ

『あの鐘を鳴らすのはあなた』（和田アキ子）や『勝手にしやがれ』（沢田研二）など、数々のヒット曲で昭和の時代を風靡した、作詞家の阿久悠氏について調べてみよう。

本書の昨年版『書誌年鑑 2020』で、見出し語「阿久悠」を探してみると、7頁に1件が掲載されている。それを見ると、河出書房新社から2019年7月に刊行された『「歌だけが残る」と、あなたは言った—わが父、阿久悠』という本（深田太郎著）の、192-194頁に「参考文献・資料」という形で書誌が載っているとわかる。さらに、関連ありそうな「流行歌」も本書で引いてみると、473-474頁に3件見つかった。「作詞」「作詞家」などは見つからなかった。

今ここで出てきた合計4冊の本を読むだけでも、阿久悠氏についてそれなりの知識は得られるのであるが、それでは本書を「使いこなした」とは言えない。本書で検索しても、書誌が掲載されていない本の情報は抜け落ちているからである。テーマ別にどんな文献が出ているかを知りたいだけなら、『日本件名図書目録』などテーマ別文献索引、あるいは図書館OPACのキーワード検索を使えば足りる。

本書の真の出番は、その先にある。本書は“書誌の書誌”であるので、

今出てきた4冊の本には、必ず書誌、つまり文献一覧が掲載されている。1冊手に取ってみると、そこにはその本を書くために著者が使った本が、参考文献一覧という形でズラリと並んでいる。4冊それぞれの書誌に掲載されている文献を総合し、自分が読まねばならない本（単行書だけでなく雑誌記事や論文なども含む）をリストアップする。これが、文献調査の始まりである。

リストアップした文献がまだ少ないと感じられた場合は、本書の過年度版を閲覧するとよい。『書誌年鑑』は1982年以降毎年刊行されており、さらに数年に一度の割合で『人物書誌索引』『主題書誌索引』という2冊の蓄積版も発行されている。今年版『書誌年鑑2021』にキーワード「阿久悠」はないが、「流行歌」は5件ある。昨年版より前では、『2019』に「流行歌」のみ3件、『2018』に「阿久悠」「流行歌」各3件、『2017』に「阿久悠」1件「流行歌」4件、『2016』には「流行歌」のみ1件。これで、2015年以降に刊行された書誌は全てチェックできたことになる。2014年以前は蓄積版で検索できる。『人物書誌索引2008-2014』に「阿久悠」が3件、『主題書誌索引2008-2014』に「流行歌」が19件発見される。そちらの書誌も参照すれば、さらに多くの文献が閲覧できるはずである。

さて、あるテーマに関して複数の書誌を検討していくと、どの書誌にも共通して掲載されている本があるのに気付く。これは、そのテーマについて調べる際に読んでおかなければ始まらない、どの著者も参照「せざるを得なかった」基本的な重要文献である。目標とするテーマについて、まずそうした本を探し出し、内容を徹底的に把握することにより、書こうとする論文に盤石な基礎が形成されることになる。

それ以外の文献は、バラエティに富んだ様々なものが掲載されている。中には、直接関係あると思えないような文献もあるが、こういった文献はすべて、論文に枝葉を茂らせるためのものである。たとえば、『書誌年鑑2018』に『阿久悠と松本隆』という本が出ている。この本の書誌には、阿久氏の同業者、松本隆氏に関する文献も多数収載されていると予想される。『木綿のハンカチーフ』『硝子の少年』などで有名な松本氏について知ることは、阿久氏を把握するうえで有力な材料になるはずであ

る。たとえばまた、阿久氏の故郷を語るのに、同氏の出身地である淡路島について知らなければ、話にならない。となれば、淡路島の地理や歴史に関する本がもしあれば、そこに関していえば阿久氏に関連した本ということになる。

あとは、書誌で見つけた文献を徹底的に調べ上げれば、力作の出現は近い。ここまで来れば、あなたはもはや阿久悠氏の“第一人者”といえよう。

3. デセール

残念ながら、本書の存在はあまり知られていないようだ。この原稿を書く際、いろいろな大学の「論文の書き方」のようなwebページを複数見てみたが、本書に触れているものを発見することはできなかった。しかし、逆に言うと、存在の知られていない本書を活用することで、あなたはライバルに一步も二歩も差をつけることができるのである。

本書のような「書誌の書誌」は、欧米など諸外国では、国立図書館や最有力図書館学会の編集物であることが多いようだ。一方日本では、一介の個人編集者が細々と作り、それを志のある出版社が採算を度外視して刊行しているのが現状である。しかし今後、日本の学術や文化、とりわけ人文・社会分野においては、「書誌の書誌」を一瞥すれば、到達水準の高さが一目で読み取れるようになるであろう。過去の編者は、そう信じて本書を毎年編集してきたし、私もそのつもりでいる。末永くご愛顧を賜りたい。(有木太一)

【あ】

- | | | | |
|--------------------------|---|--------------------------------|---------------------------|
| アーカイブ
⇔文書館 | 『アーカイブズと私—大阪大学での経験』
(阿部武司) | クロスカルチャー
出版
2020.2 | 参考文献
p171-175 |
| アートドキュメン
テーション | 『アート・ドキュメンテーション研究 27・
28』〈JADS文献情報委員会〉 | アート・ドキュメン
テーション学会
2020.5 | 文献目録
p99-111 |
| アートマネジメ
ント | 『アートがひらく地域のこれから—クリエイ
ティビティを生かす社会へ』(野田邦弘
ほか) | ミネルヴァ書房
2020.3 | 文献
prr |
| アートマネジメン
ト
⇔東京芸術大学 | 『アートプロジェクトのピアレビュー—対
話と支え合いの評価手法』(熊倉純子) | 水曜社
2020.3 | 参考文献
p113, 121 |
| アートマネジメン
ト
⇔表現の自由 | 『芸術祭の危機管理—表現の自由を守るマ
ネジメント』(吉田隆之) | 水曜社
2020.8 | 参考資料文献
対照表
p196-197 |
| アーリ, J. | 『モビリティーズのまなざし—ジョン・アー
リの思想と実践』(小川(西秋)葉子ほか) | 丸善出版
2020.11 | 参考引用文献
prr |
| RNA | 『別冊・医学のあゆみ マイクロRNA研究
の進歩』(落谷孝広ほか) | 医歯薬出版
2020.4 | 文献
prr |
| アールヌーボー
⇔ヨーロッパ建築 | 『ハプスブルク帝国のアールヌーヴォー建
築』(小谷匡宏) | リーブル出版
2020.4 | 参考文献
p468-469 |
| アーレント, H. | 『いま読み直したい思想家9人』(布施元ほ
か)〈小森(井上)達郎〉 | 粹出版社
2020.5 | 参考文献
p177-179 |
| アーレント, H. | 『活動の奇跡—アーレント政治理論と哲学
カフェ』(三浦隆宏) | 法政大出版局
2020.6 | 引用参考文献
p348-335 |
| アーレント, H.
⇔ヨナス, H. | 『漂泊のアーレント 戦場のヨナス—ふた
りの20世紀 ふたつの旅路』(戸谷洋志ほか) | 慶應義塾大出版会
2020.7 | 参考文献
p352-347 |
| アーレント, H. | 『教育のリーダーシップとハンナ・アー
レント』(H. M. ガンター) | 春風社
2020.12 | 文献一覧
p9-30b |
| IoT | 『IoTセキュリティ技術入門』(松井俊浩) | 日刊工業新聞社
2020.1 | 参考文献
p180-182 |
| IoT
⇔無線通信 | 『IoTソフトウェア無線の教科書—IoTシス
テムに潜む脅威と対策』(上松亮介) | データハウス
2020.3 | 参考文献
prr |
| IoT
⇔自動車 | 『つながるクルマ』(河口信夫ほか) | コロナ社
2020.11 | 引用参考文献
prr |
| 『アイオーン』 | 『ユングの『アイオーン』を読む—時代精
神と自己の探究』(E. エディンジャー) | 青土社
2020.12 | 文献
p351-356 |
| 愛敬浩一 | 『愛敬浩一詩集』(愛敬浩一) | 土曜美術社出版販
売
2020.4 | 年譜
p183-187 |

愛知県 ⇨商店	『尾張・三河一明治の商店絵解き散歩』(森靖雄)	風媒社 2020.1	参考文献 p168-170
愛知県 ⇨菓子	『三河の菓子文化』(須川妙子)	風媒社 2020.3	参考文献 p182-191
愛知県史	『愛知県史 通史編 9 現代』(愛知県史編さん委員会)	愛知県 2020.3	引用参考文献 p794-824
愛知県史	『愛知県史 通史編 10 年表・索引』(愛知県史編さん委員会)	愛知県 2020.3	引用参考文献 p664-681
愛知県史	『尾張国郡司百姓等解文の時代』(梅村喬)	塙書房 2020.10	参考文献一覧 p356-362
愛知県史 ⇨陶磁器	『狼投「青瓷」から読み解く宋「青磁」の謎』(大石訓義)	東京図書出版 2020.10	参考文献 p111-112
「愛知県史研究」 1-24 (1997.3- 2020.3)	「愛知県史研究 24」	愛知県 2020.3	総目次・索引 p153-142 (1- 14b)
愛着	『支援のための臨床的アタッチメント論—「安心感のケア」に向けて』(工藤晋平)	ミネルヴァ書房 2020.3	引用文献 p331-356
ITガバナンス	『「IT前提経営」が組織を変える—デジタルネイティブと共に働く』(高柳寛樹)	近代科学社 Digital 2020.3	参考文献 p133-139
アイデンティティ	『学び手はいかにアイデンティティを構築していくか—保幼小におけるアセスメント実践「学びの物語」』(M. カーほか)	ひとなる書房 2020.3	文献一覧 p246-256
アイヌ	『<沈黙>の自伝的民族誌—サイレント・アイヌの痛みと救済の物語』(石原真衣)	北海道大出版会 2020.2	参考文献 p273-284
アイヌ ⇨育児	『アイヌ民俗技術調査 11 育児に関する民俗技術 2』	北海道教委 2020.3	参考引用文献 p299-301
アイヌ	『アイヌの真実』(北原モコットゥナシ)	ベストセラーズ 2020.5	参考文献 p190-191
アイヌ	『戦後アイヌ民族活動史』(竹内渉)	解放出版社 2020.6	参考文献 p189-192
アイヌ	『アイヌの権利とは何か—新法・象徴空間・東京五輪と先住民』(T. モーリス=スズキほか)	かもがわ出版 2020.7	参考文献 p88-89, 151- 152
アイヌ ⇨日本史	『夷の古代史—邪馬台国そしてアイヌ』(澤田健一)	柏艸舎 2020.12	参考資料 p213-216
アイヌ語	『アイヌ語調査資料のデータベース化に関する基礎的研究 9』(佐藤知己)	北海道大 2020.3	参考文献 p164-167
アイヌ語	『アイヌ韻文の行頭韻』(丹菊逸治)	北海道大 2020.3	引用文献 p111-112
アイヌ語	『アイヌ語の世界 新装普及版』(田村すゝ子)	吉川弘文館 2020.3	著作論文目録 p122-127
iPS細胞 ⇨生命科学	『iPS細胞の研究—一体のしくみから研究の未来まで』(京都大)	東京書籍 2020.4	参考文献 p142-144

巖光 ⇨松本竣介	『無辜の絵画—巖光、竣介と戦時期の画家』(広島市現代美術館)	国書刊行会 2020.5	文献案内ほか p307-313, 332
アイルランド	『妖精の棲む島アイルランド—自然・歴史・物語と旅する』(渡辺洋子)	三弥井書店 2020.4	参考文献 p289-294
アイルランド ⇨地方自治	『アイルランドの地方政府—自治体ガバナンスの基本体系』(M. キャラナン)	明石書店 2020.4	参考文献 p581-627
アイルランド文学 ⇨ダブリン	『イエイツとジョイスの時代のダブリン』(R. M. ケイン)	小鳥遊書房 2020.7	文献一覧 p221-224
アイロニー	『アイロニーはなぜ伝わるのか?』(木原善彦)	光文社 2020.1	引用文献 p210-218
アウグストゥス	『アウグストゥス—虚像と実像』(B. レヴィック)	法政大出版局 2020.8	文献一覧 p13-31b
アウトサイダー アート ⇨障害者福祉	『障害者と表現活動—自己肯定と承認の場をめぐむ』(川井田祥子)	水曜社 2020.3	参考文献 p169-171
アウトドア	「こどもの本 46.10=571」	日本児童図書出版 協会 2020.10	こんな本 p47-49
「青い海」1.1-15. 7=145 (1971.4. 1-1985.9.5)	『「青い海」—解題・総目次・執筆索引』(松下博文)	三人社 2020.8	☆ 385p A5
「青い花」	『青い花』(辺見庸)	岩波書店 2020.11	参考資料 p174-176
青木重幸	「経済学季報 69.4」	立正大 2020.3	業績 9pf
青森県 ⇨遺跡・遺物	『青森県の考古学史ノート—研究者たちと先史遺跡の記録』(福田友之)	北方新社 2020.7	文献一覧ほか p171-220
青森県 ⇨文学碑	『中南津軽文学散歩』	青森県近代文学館 2020.7	文学年表 p25-28
青森県史 ⇨町村合併	『青森県昭和の町と村—大合併で消えた自治体の記録』(中園裕)	デーリー東北新聞 社 2020.3	参考文献 p248-256
青森県史 ⇨狩猟	『弘前藩いさものがたり—弘前藩庁日記に記録された鳥獣の話』(竹内健悟)	北方新社 2020.9	文献 p64-66
青山公三	「龍谷政策学論集 9.2」	龍谷大 2020.3	業績一覧 p102-104
青山二郎	『青山二郎—物は一服人は一口』(田野勲)	ミネルヴァ書房 2020.7	参考文献 p347-350
「青山学院女子短期 大学紀要」1-73 (1952.7-2019. 12)	「青山学院女子短期大学紀要 74」	青山学院女子短大 2020.12	総目次 p86-120
赤江瀑	『赤江瀑の世界—花の呪縛を修羅と舞い』(沢田安史)	河出書房新社 2020.6	作品リスト p230-244

京都市山科区 『山科の歴史探訪 別冊 郷土資料目録』 山科の歴史を知る会
2020.10 251p A4

京都市山科区は、京都市東部の山科盆地にあって、京都市街地と滋賀県大津市との間に挟まれたベッドタウンである。「山科の歴史を知る会」は、京都市東山区から山科区が分区した1976(昭和51)年に結成された。地域住民が身近な歴史を研究し、その成果を信用金庫のロビー展で発表するほか、出版物の発行や、区文化協議会主催の見学会への協力などの活動を展開してきた。本書は、同会が発足以来刊行してきた会誌『山科の歴史探訪』を編集する際に参照した参考文献をまとめたものである。毎回の号に参考文献を全部に掲載しきれないため、半世紀かけて収集したあらゆる分野の資料をまとめて目録として刊行したという。同誌第19号(2018年4月)の編集後記で《いつれかの機会に山科に関する文献資料目録を発行したいと思っており》と構想が明らかにされていた。編集は、会設立当初からのメンバーである会長の岡本洋氏によると思われる。

本文は横書き表形式。全体を40章に分け、各資料には章ごとに通し番号が振られている。単行書の場合は書名・著者名・発行年月、雑誌記事の場合は記事名・筆者名・誌名・巻号・掲載ページ(始～終)と発行年月が表示されている。章立ては以下のとおり。歴史(一般)・地誌・地誌(古典)・地誌(名所案内)・中世～近世史・宗教(一般)・宗教(安祥寺)・宗教(勧修寺)・宗教(随心院)・宗教(昆沙門堂)・宗教(蓮如、本願寺)・宗教(その他)・宗教(醍醐寺)・醍醐～六地藏・神社、御陵・忠臣蔵(岩屋寺)・統計・教育・人物・考古学(全般)・考古学(一般)(市報告書)・考古学(一般)・考古学(中臣遺跡)・古代史・条里制・文学(古典)・文学(近代)・大津絵・自然、災害・産業・農業・琵琶湖疏水・交通(一般)・交通(国鉄)・交通(私鉄)・交通(道路)・その他・地図(国土地理院)・地図・絵葉書。

「醍醐～六地藏」は山科区からは外れるが、一続きのエリアとして資料が収録されている。6～13章の「宗教」は寺院別になっているが、別に「神社、御陵」という一章を設けたり、16章「忠臣蔵」は岩屋寺という一つの寺についてまとめたものであるなど、脈絡がないように見える。寺院の多い京都市の土地柄は反映しているかもしれないが、もう少し整理しておくべきではなかっただろうか。なお、琵琶湖疏水や大津絵などはこの地域らしい。

本書のように地域の資料を集めた書誌は、昨年の書誌解説で深井人詩氏が新潟県佐渡市のものを取り上げたように、毎年いくつかの地域で刊行されている。地域愛は大いに感じるのだが、書誌としては課題を残したケースもあるようだ。本書で、和久峻三著『裁かれた銀行』(37章「その他」180番)を見てみると、書名・作者名・出版年月

◎配列は解説者名の五十音順とし、同一解説者内ではキーワードの五十音順とした。

◎解説者 ()内は新旧関係機関など

有木太一(本書編者)

鈴木一正(元国文学研究資料館)

増井ゆう子(国文学研究資料館)

水村里都代(東京農業大学第一高等学校・中部部)

編者略歴

有木 太一（ありき・ふとし）

1968年生、早稲田大学第二文学部卒。深井人詩氏に師事して、在野の書誌研究者となる。2016年版から中西裕氏のもと『書誌年鑑』の編集に加わり、中西氏勇退後の2018年版から編集を引き継いだ。「最近の書誌図書関係文献」（日外アソシエーツHP）毎月連載。

書誌年鑑 2021

2021年12月25日 第1刷発行

編 集／有木太一

発 行 者／山下浩

発 行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©ARIKI Futoshi 2021

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えいたします>

〈中性紙三菱クレームエレガ使用〉

ISBN978-4-8169-2903-8

Printed in Japan, 2021